



2026/09/10

Uzume Music合同会社 代表社員 徳武史弥

1. 公演概要

本公演は、戦前の沖縄・辻花街を舞台に、琉球芸者「ジュリ」として生きた女性たちの姿を描く新作音楽劇『琉球芸者ジュリ～戦前編～』である。演劇、音楽、琉球舞踊、生演奏、映像演出を組み合わせ、沖縄の地域文化と現代の舞台表現を融合させた舞台作品として上演する。

公演名

新作音楽劇『琉球芸者ジュリ～戦前編～』

会場

渋谷区文化総合センター大和田・伝承ホール

公演日程

2027年6月17日（木）～6月18日（金）

会場スケジュール予定

2027年6月15日（火） 会場入り・仕込み

2027年6月16日（水） 場当たり、GP

2027年6月17日（木） 公演1, 2

2027年6月18日（金） 公演3, 4

公演回数

全4公演予定

【GPについて】

2027年6月16日（水）夜間にGPを予定しています。

原則として関係者のみで実施する予定ですが、状況により、一般公開する場合があります。あらかじめご了承ください。

開場・開演時間

1, 3

各公演とも、13:00開場／13:30開演を想定

2, 4

各公演とも、18:30開場／19:00開演を想定

上演時間

約120分予定

チケット料金

劇場チケット：6,600円を想定

配信チケット：3,300円を想定

配信

公演の配信を予定。配信対象公演については検討中。配信形式、アーカイブ期間等については、出演者・音楽・映像・VTuber出演に関する権利処理を踏まえ、今後調整する。

催事内容

音楽劇公演

演劇、音楽、琉球舞踊、生演奏、映像演出を組み合わせた舞台公演

主催・制作

Uzume Music合同会社

共催

多感エンターテイメント

ナツメガーデン株式会社

琉舞鶴之会 野原千鶴琉球舞踊研究所

玉木流琉装からじ結い東京支部

Eden Bug

ほか調整中

制作体制

総合プロデュース：徳武史弥

脚本・演出：畠山貴憲

作曲：丸山和範、徳武史弥

照明・特殊効果・バーチャル演出：M2-LITE合同会社

ほか調整中

2. 企画趣旨

本企画は、戦前の沖縄・辻花街を舞台とした新作音楽劇『琉球芸者ジュリ～戦前編～』を、渋谷区文化総合センター大和田・伝承ホールにて上演するものである。

題材となる「ジュリ」とは、琉球王朝時代から400年以上にわたり沖縄の辻花街で働き、琉球芸能を身につけ、歌や演奏、踊りによって客をもてなしてきた女性たちを指す。本作品では、戦前の激動の時代を背景に、結婚、自立、出産、家族、別れといった人生の選択に直面しながらも、「義理・人情・報恩」を信念に強く生き抜いたジュリたちの姿を描く。

本作は、現在沖縄の料亭等で上演されている没入型演劇『ジュリの部屋を覗き見』シリーズをもとに、新たに舞台版の音楽劇として構成するものである。琉球舞踊、三線や箏等を含む生

演奏、俳優による演劇に加え、VTuberを「先祖霊」役として起用し、紗幕への映像投影を行う。

これにより、沖縄の地域文化、伝統芸能、生の舞台芸術、VTuberをはじめとするデジタルメディア表現を融合させた、新しい舞台芸術の創出を目指す。

近年、世界各地で分断や対立が深まり、他者との関係性や共同体のあり方が改めて問われている。こうした時代において、日本が発信すべき価値は、都市的な先端文化だけでなく、地域に根づいた暮らし、信仰、芸能、人と人との関係性の中にも存在すると考える。

本作品の核にあるのは、辻花街の三原則とも言われた「義理・人情・報恩」である。これは単なる道徳ではなく、厳しい現実の中で人と人とが関係を結び、受けた恩を忘れず、互いに支え合いながら生きるための生活の知恵であった。本企画では、この記憶を新作音楽劇として再構成し、現代の観客に対して「受けた恩にどう応えるのか」「他者とどう結び直すのか」という問いを投げかける。

地域文化の記憶を保存するだけでなく、現代の舞台表現として更新し、東京から国内外へ発信することが、本企画の目的である。

3. 題材となるジュリと辻花街について

「ジュリ」とは、琉球王朝時代から400年以上続いた沖縄の辻花街で働いていた女性たちのことを指す。本土の花街とは異なり、辻花街は女性が主体となって生活や運営を自治していた特異な文化圏であった。彼女たちは、当時男性にしか許されていなかった琉球芸能を身につけ、歌や演奏、踊りによって客をもてなしていた。

辻花街には、身売りされてきた子どもたちや、家族と引き離された女性たちなど、時代や制度に翻弄される過酷な現実が存在した。その一方で、女性たちが芸能を身につけることで自らの生活を支え、互いに助け合いながら生きてきた逞しい歴史もある。

本作品は、この「光と影」の両面を丁寧に見つめ、ジュリたちを単なる悲劇の存在としてではなく、困難な時代を強く生き抜いた主体的な女性たちとして描く。

また、沖縄には「あの世」と「この世」が地続きであるという独自の死生観がある。先祖や過去の記憶は、現在を生きる人々と切り離されたものではない。本作品では、この死生観を舞台上に立ち上げるため、「先祖霊」を物語のナビゲーターとして登場させる。

4. 作品内容、テーマ

物語の舞台は、戦前、昭和初期の沖縄・辻花街の一角にある楼「辻之屋」である。辻花街とは、かつて那覇に存在した花街であり、琉球芸能を身につけた女性たちが歌や演奏、踊りによって客をもてなしていた場所である。

楼「辻之屋」には、全体を取り仕切るアンマーである新里カマドのもと、当間ツル、上原ナベ、新里カメ、知念ウシという、年齢や境遇の異なるジュリたちが暮らしている。彼女たちは、年頃を迎える中で、ジュリをやめて一般的な結婚を選ぶのか、自らも子どもを持ち、将来的に楼の主となるのか、客との間に生まれた子どもをどのように育てるのかといった、辻花街で生きる女性たち特有の深い葛藤に直面する。

世界が戦争へと向かっていく激動の時代において、彼女たちは結婚、自立、出産、家族、別れといった人生の選択に向き合っていく。

本作の中心テーマは、「義理・人情・報恩」である。「義理」は人として果たすべき責任や筋道、「人情」は他者を思いやる心、「報恩」は受けた恩に報いようとする姿勢を意味する。これらは、辻花街で生きた女性たちにとって、人と人との関係を支え、困難な現実を生き抜くための信念であった。

現代社会では、効率や合理性、個人の利益が重視される一方で、他者とのつながりや、受けた恩にどう応えるのかという感覚が希薄になりつつある。本作品は、ジュリたちの生き様を通して、現代の観客に人間関係の根底にある「心」のあり方を問い直すものである。

5. 募集対象・応募条件

- ・女性キャスト：20代～60代。舞台経験者優遇。本番までに役柄に必要な長さまで髪を伸ばせる方。
- ・男性キャスト：20代～40代。
- ・2027年5月中旬～6月中旬の稽古、および6月15日～18日の仕込み・本番に参加できる方。
- ・芸能事務所等に所属している方は、事前に所属先の了承を得ること。

6. 募集内容

募集職種	人数	役柄・備考
俳優	6名程度	楼主（アンマー）新里カマド、ジュリの当間ツル・上原ナベ、そのほか肇・慎太郎など。

■ 主な登場人物

新里カマド（愛称：カマド）

辻之屋を仕切る楼主（アンマー）。若いジュリたちの抱親として見守り、答えを直接与えず、内職を勧めたり物語を語ったりすることで本人が気づくよう導く。ハイビスカスや「花風」の逸話を通じて、ジュリとして生きる美しさと悲しさを伝える、物語全体を包む母性的存在。

当間ツル（愛称：チルー）

芸と知識に誇りを持つジュリ。沖縄の風習（マブヤーグミー、石敢當、浜下り等）を客に語ることを自らの存在価値としている。辻之屋への嫉妬や噂が家族に迷惑をかけることを案じ、愛

する尚文のもとパラオへ旅立つ決意をする。「家族を守るために離れる」という逆説的な愛を体現する役。

上原ナベ（愛称：ナビー）

内地出身の教師・慎太郎と出会い、「辻のかぐや姫」と称される芸と気品を持つジュリ。慎太郎ただ一人を支える「チミジュリ」になる決意をするが、それは受け身の恋愛ではなく、自らの芸・生活力・教養をもって能動的に人生を選び取る自立した女性としての選択である。

肇

辻花街の裏側を知る情報通で、相談役・探偵のような立ち位置からジュリたちを現実的に支える男性キャスト。マブヤーグミーの場面などでは、真面目さとユーモアを併せ持ち、辻之屋を支える一員としての存在感を見せる。

慎太郎

内地出身の教師。沖縄文化とジュリを驚きと敬意をもって受け止め、「人間教育はあの花街の中にある」という理念を抱く。ナビーの芸・品性・自立性に心を動かされ、恋に落ちる男性キャスト。

7. 稽古・出演条件

稽古期間	2027年5月中旬～6月中旬
稽古頻度	週3～6回程度
出演料	ステージギャラあり（規定により支給）・ノルマなし・チケットバックあり
備考	稽古場や劇場までの交通費、食事代はご負担ください

8. 選考方法・スケジュール

一次選考	書類選考（応募フォームより） 応募締切：2026年 10月13日 23:59
一次結果・二次案内	2026年10月15日までに、合否結果にかかわらずご連絡します。
二次選考	演技審査・面接 2026年10月24日（土）・25日（日）のいずれか 会場：東京都23区内（詳細は書類選考通過者にのみ通知） ※参加可能日は応募時に提示、審査日時は主催者側で指定
備考	オーディション参加費：なし 2次オーディション会場までの交通費はご負担ください

9. 応募方法

応募フォーム	https://forms.gle/rqrYoaY99Xb7wcKA9
問い合わせ先	audition@uzumemusic.com

10. 制作

本公演では、俳優、琉球舞踊の踊り手、生演奏者、VTuber出演者を中心に、演劇・音楽・琉球舞踊・映像演出を横断する出演体制を想定している。

出演者は、俳優8名程度、琉球舞踊の踊り手4～6名程度、生演奏者8～10名程度、VTuber出演者1名程度を想定する。

琉球舞踊、琉装、からじ結いについては、琉舞鶴之会 野原千鶴琉球舞踊研究所、玉木流琉装からじ結い東京支部等の専門団体と連携し、沖縄文化や琉球芸能に配慮した表現を行う。

また、音楽面では三線や箏等の沖縄伝統楽器を含む生演奏を取り入れ、Eden Bugをはじめとする演奏者・音楽関係者と連携して制作を進める。

VTuber出演者については、「先祖霊」役としての出演を想定しており、既存VTuberの起用を検討中である。出演形式はリアルタイム出演ではなく、事前収録した台詞・歌唱・映像を舞台進行に合わせて送出し、紗幕等へ投影する形式を予定している。

制作体制としては、Uzume Music合同会社が主催・制作を担い、徳武史弥が総合プロデュースを行う。脚本・演出は畠山貴憲氏、作曲は丸山和範氏および徳武史弥が担当予定である。照明・特殊効果・バーチャル演出については、M2-LITE合同会社が担当予定であり、生身の俳優・舞踊家・演奏家とデジタル表現が自然に共存する舞台空間の構築を目指す。